

週刊 タバコの正体

つい最近、以下のような記事が報道されました。イギリスの首相が「2009年以降に生まれた人への紙巻タバコの販売を禁じる」法案を提出すると表明したのです。記事には、「喫煙が原因で多くの人が入院するとして国民医療制度に大きな負担がかかっている、と強調した」とあります。

英、紙巻きたばこ生涯禁止 2009年以降生まれ対象に

【マンチェスター=江淵智弘】スナク英首相は4日、2009年以降に生まれた人への紙巻きたばこの販売を禁じる法案を議会に提出すると表明した。がんなどの病気を引き起こすたばこが公的医療制度の負担になっているとして喫煙人口の抑制をめざす。

マンチェスターで開いた与党・保守党の党大会の演説で明らかにした。

英国では現在、18歳以上にたばこを売れる。この年齢を毎年1歳ずつ引き上げる法案を提出する。28年から引き上げを始めれば、09年以降に生まれた現在14歳以下の人は生涯、たばこを買えなくなる。

「非喫煙世代」が次第に多数派になり、喫煙人口が減っていく効果を見込む。

スナク氏は「現在14歳の人合法的にたばこを買えることは(大人になっても)決してない。彼らの世代はたばこを吸わずに育つ」と述べた。

喫煙者の5人に4人が20歳までに吸い始めると指摘し「サイクルを断ち切れれば予防可能な死亡と病気の最大の原因をなくせる」と訴えた。喫煙が原因で多くの人が入院するとして「国民医療制度に大きな負担がかかっている」と強調した。

法案の採否は各議員が党の方針に縛られない自由投票で決める。

紙巻きたばこの販売禁止をめぐるっては、ニュージーランドも09年以降に生まれた人を対象にした法律をすでに整備している

日本経済新聞記事から



テレ東 BIZ から



じつは、タバコの販売を禁止しようとしているのはイギリスだけではなく、ニュージーランド

では同様の法案が昨年すでに議会で可決しています。担当大臣は「使用した人の半分が死亡するような製品の販売を許可する正当な理由はない」と語っています。

世界中でタバコの健康被害をなくす対策がとられている中、「そもそもタバコを売らなければ良いのでは」という動きが出始めています。

産業デザイン科 奥田恭久